



## よろしくお願ひします

校長 前田仁子(きみこ)



新年度も五月を迎え、緑したたる爽やかな季節となりました。本年度、中芸高等学校の校長として赴任しました前田仁子です。昨年までは、県西部の中村高等学校で教頭職についておりました。経験もなく先行き不安な思いもありますが、生徒や保護者の皆様、地域の関係各位、そして田野分校を含む多くの教職員の方々のお力を借りながら、中芸高校の運営を精一杯努めていきたいと決意しています。どうぞよろしくお願ひします。

さて、入学式や始業式に、生徒の皆さんに話す機会がありました。いくつかのことを述べましたが、皆さんに一番早く受けとめてもらえたのは、「あいさつは自分から」でした。そして、一月が過ぎようとしています。今、私の周りには皆さんの素敵なあいさつがあふれています。元気のよいあいさつ。恥ずかしそうなあいさつ。一生懸命のあいさつ。

「おはようございます！僕の勝ち！」の楽しいあいさつ。(確かに、『先生に先にあいさつされたら負け。』と言いましたね。)後方からの「こんにちは！」のあいさつ。(本当は前からするものですが、私と生徒さんの関係ならOKです。とても好感をもちました)。・・・  
声をかける、直接に言葉をやり取りする。そのことの素晴らしさを、一番シンプルにあらわしてくれるのがあいさつです。そして、皆さんに社会が望んでいるのが、まさにこのことではないでしょうか。  
今、社会一般のみならず、全世界に対してさえ自分の声を発信することはとても簡単です。そのためのツール(道具)は、お金を出せば、個人もちの小さな携帯電話として手に入れることができます。でも、私たちの人生に必要なのは、今、自分の目の前にいる人と仲良くしたり、けんかしたり、許しあったり、力を合わせて何かをなし遂げたりすることです。言葉が誰かの心に届く時、それは自分の思ったとおりの成果をあげてほしいものですが、私自身も国語の教師でありながら、周囲の人たちといつもベストのコミュニケーションがとれているわけではありません。そういった自己戒の意味も込めて、学校便りなどでは、『言葉』にまつわる話題を多く取りあげたいと考えています。

今回は、前任の高校のとあるクラスで出会った言葉を紹介いたします。そのクラスでは、生徒がそれぞれ好きな言葉を自由に持ち寄って、週代わりで教室に掲示していました。ここに授業の見学に行つて、思わずメモしてしまつた言葉です。知っているという人もいるかもしれませんが。

思考に気をつけなさい。  
それはいつか言葉になるから。  
言葉に気をつけなさい。  
それはいつか行動になるから。  
それはいつか習慣になるから。  
それはいつか習慣になるから。  
それはいつか性格になるから。  
それはいつか性格になるから。



出典を調べると、これはマザー・テレサの言葉でした。マザー・テレサのことは、貧しいインドの人々の生活の改善に人生をささげ、1979年にノーベル平和賞を受賞した敬虔な修道女、平和運動家として習いおぼえていなかったため、このような鋭い箴言(しんげん)(教訓やいましめを込めた短い言葉)がマザー・テレサの言葉であつたことに驚きました。

思考とは、言うまでもなく、私たちが考える内容、中身のことです。ものごとこのとらえ方だと言つてもかまいません。「自分が何を考へているか、言わなければそれでいい」などと人は思いがちですが、それらが言葉の端々にこぼれ出ることがあります。そこから、自分の発言の裏づけをするような行動が生まれ、繰り返すうちに習慣となり、性格になる。そして性格は・・・最後の一節には、何かヒヤリとするような恐ろしさがあつた、私のような心がけのあまりよくない者には、大変耳の痛い言葉となりました。そして同時に、『運命』になつてからでは遅い、若い人たちに聞いてほしい言葉だとも思いました。そういう意味では、これを写してきた高校二年生の誰かは、非常に的確な選択をしています。また、「生き聖人」と呼ばれたマザー・テレサも、決して心優しい篤志家とくしか(公共の事業や慈善活動などに協力を惜しまない人)であつただけでなく、人間の本質に切り込む深い洞察力があつたことがわかります。皆さんにとつても、「少し怖くて、でも心に置いておきたい言葉」になればいいと思います。  
新しい学年への出発には、色々と心配なことも多いと思ひます。小さなことでも、学校にご相談いただき、みんなで、元気で豊かな学校生活を送つていきましょう。

## 平成二十六年入学式

四月七日(月)、昼間部二十一名、夜間部二名の新生を迎え、入学式が行われました。



式では、入学生を代表して廣末優斗くんが「部活動や学校行事などに積極的に取り組み、自身自身の進路を決めるために、精一杯努力することを誓います。」と力強く宣誓を行い、高校生活をスタートさせました。

新たな出会いや学びへの期待と不安に緊張しながらも、中芸高校生としての一歩をしっかりと踏み始めた一年生たちです。



## 対面式 ホーム開き

入学式翌日の八日、二・三年次生と新入生との対面式が行われ、生徒会長の近藤和希くんが歓迎の挨拶を、一年生を代表して益岡勇輔くんがお礼と決意の言葉を述べました。

その後、部活動紹介が行われ、文化部・体育部がそれぞれ作品やプレーを披露し、新入部員募集をアピールしました。

続いて、本校の特色であるピアサポートホーム(三年生縦割りのホーム編成)ごとのホーム開き。上級生が計画・主導して、自己紹介やレクを行い、クラスの新たなメンバーとなる一年生を迎えました。新入生もなかなか積極的で、楽しい時間を過ごすことができました。



## 仲間作り

四月十五日(火)、一年生が「仲間作り」に取り組みました。これは初対面の人とも自然に関わつていけるように工夫された活動で、新しい環境に早く馴染み、意欲的に高校生活を送れるよう、毎年入学後間もない時期に実施しています。今年の入学生は、元気な生徒たちが多く、お互いに声を掛け合いながら、笑顔があふれる中で、協力し合つて活動することができました。



## 進路ガイダンス

四月三十日(水)、進路意識を喚起する演劇の鑑賞と、就職・進学に分かれてのガイダンスを行いました。前半、三人で演じられた演劇の軽妙な掛け合いは、生徒たちの興味を強く惹き付け、後半は来校した大学・短大・専門学校での募集担当の方から学内案内を受けたり、就職への心構えを学んだりました。三年生は目前になった進路に、一・二年生は早めの意識付けにつながるガイダンスとなりました。

## 企業訪問

五月十四日(水)、二つのグループに分かれて左記の県内の企業を見学に行きました。

▼一年生：南国市の「ひまわり乳業」・旭流通システム株式会社高知流通センター」

▼二・三年生：安芸市の「クラウディア安芸ソーイング」と「ワークセンター」、南国市の「トリムエレクトリックマシナリー」

それぞれの事業所の特徴や業務内容はもちろんのこと、説明をしてくださる方のお話、そして現場で作業をされている方々の姿に、近い将来社会に出るために身につけておくべきことや心構えなど、進路を考える良い機会となつたようです。

